

環境リサイクル肉牛協議会第 23 回総会  
特定非営利活動法人 環境リサイクル肉牛協議会第 14 回通常総会

議事録

日 時：6月11日（土） 13:00～

場 所：新得町 北海道立総合研究機構 畜産試験場 1階 講堂

1. 挨拶 理事長 左 久  
腰を痛めて総会に出席できず、モニターにてご挨拶させていただきます。3年にわたるコロナ下でも、当会の総会及び飼養技術研修会が開催するにあたり、鑑み深く思います。飼養技術研修会では、2講演があり、活発なご意見を期待します
2. 総会成立条件：出席者9名モニター6委任状12：27/28 会員 96%総会成立  
実参加者 15名
3. 議長選出：瀬野氏 書記：岩崎氏
4. 議事
  - 1) 第1号議案 2021年度事業報告及び収支決算に関する件
  - 2) 第2号議案 2022年度事業計画及び収支予算に関する件
  - 3) 第3号議案 そのほか  
役員改選は2年任期で今年はありません

第1号議案

I. 2021年度事業報告

1. 2021年度会員募集（2022年3月末）

個人会員	15名（±0）	
団体会員	13団体（-2+1）	合計 28
内訳）	生産者・生産者団体	10
	食肉流通事業者	2
	消費者団体	1
	学研・指導機関	11
	飼料事業者	4

2. 総会・理事会等の開催

- 1) 総会 2021年度第22回(NPO法人第13回通常総会 書面による)  
議案書成立の要件 会員総数28 会員 了承返信28通 100%で成立  
・2020年度事業報告・決算報告  
・2021年度事業計画・予算  
以上2議案は了承される  
・役員改選 理事長 左久ほか理事9名継承 2021～2022年度2年任期
- 2) 理事会（事務局会議）

- 第1回 2021年6月11日道総研畜産試験場6名 協議会の運営体制
- 第2回 2021年8月20日道総研畜産試験場7名 シンポジウム
- 第3回 2021年10月28日道総研畜産試験場7名 シンポジウム事前打ち合わせ
- 第4回 2022年2月25日道総研畜産試験場5名 次年度事業

3)

### 3. 学術情報の収集と肉牛飼養技術研修会の開催 定款条1-②

#### 1) 学術情報の収集

関連加入団体 8ヶ所 年会費 35,000円

肉用牛研究会 (事務局/京都大学 年会費/3,000 個人窓口/左)

日本畜産学会 (東京 公益社団法人 4,000 左)

日本産肉研究会 (北里大学 FSC 八雲牧場 5,000 団体)

畜産システム研究会(京都大学畜産資源学 3,000 花房)

北海道畜産技術連盟(北海道酪農畜産協会 4,000 左)

北海道肉牛研究会 (道総研 畜産試験場 3,000 花房)

北海道アンガス牛振興協議会(内藤会長 3,000 花房)

北海道オーガニックビーフ振興協議会(帯広市 10,000 花房)

#### 2) 肉牛飼養技術研修会の開催

第1回 6月コロナ禍で開催できず

第2回 2月初旬 開催できず

#### 3) JAS 有機の格付委託業務(北里 FSC 八雲牧場からの受託、有機牛の肉質調査)は HOBA 北海道オーガニックビーフ振興協議会に移管

### 4. 第18回資源循環型肉牛生産シンポジウム2021 定款5 定款条1-④

テーマ「持続可能な食料生産システムを考える～ポストコロナを見据えて～」

日時：2021年10月28日 13:00-17:00 とかちプラザ(帯広市) 視聴覚室

共催：環境リサイクル肉牛協議会、北海道アンガス牛振興協議会

北海道短角牛振興協議会、北海道オーガニックビーフ振興協議会、帯広市

内容：

#### 1. 基調講演「持続的な畜産物生産を目指して～みどりの食料システム戦略～」

講演者：北海道農政部生産振興局畜産振興課主幹 叶 拓斗氏

#### 2. 話題提供 1. (生産者)「北大静内研究牧場の持続可能な畜産を目指して」

北海道大学静内研究牧場 牧場長 准教授 河合 正人氏

話題提供 2. (流通関係)「消費者目線で持続可能な食料生産システムを考え」

生活協同組合連合会 コープ自然派事業連合

商品部統括マネージャー 前田 陽一氏

話題提供 3. 「肉牛専用種枝肉共励会の成績について」

司会 帯広畜産大学 教授 口田圭吾氏と

授賞式 北海道酪農畜産協会 受賞生産者

## 3. パネルディスカッション 司会 石原隆司氏 パネラー：3 講演者

意見交換会 eびーふ 試食会 現地検討会中止

参加者数： シンポジウム 75 名 モニター参加 20 名

## 5. 機関誌発行・ホームページ編集 定款5条1-⑤

1) 月刊情報誌「eびーふ NEWS 北の牧場から」 毎月発行 12 回発行配信

2) ホームページ：インターネットを利用し情報を公開・発信する体制の充実を図る。

ホームページ <http://www.e-beef.jp/> 事務局アドレス kanrikyo@e-beef.jp

## 6. 「eびーふ」認証事業 定款5条1-①

1) 北大静内研究牧場 2021/11 eびーふ認証取得

2) 「eびーふ」の商標登録 10 年間権利保持(2023 年まで)

## 7. 肥育モデル作成事業 定款5条1-③

1) 第 11 回 北海道肉専用種枝肉共励会 10/28 北海道畜産公社

22 頭出展 アンガス牛 10 頭 日本短角種 12 頭

2) 飼料事業の検討：eびーふ事業化推進

草薙農園/カルビーポテトポイルcと規格外小麦

3) アンガス飼養実態調査・統一飼養マニュアル作成

北海道アンガス牛振興協議会、北海道オーガニックビーフ振興協議会との連動

## 8. 2021 年度収支決算報告

## 収入の部

項 目		予 算	決 算	備 考
1)会費・入会金	個人	90,000	90,000	今年度分 15 人 6,000
	団体	130,000	140,000	今年度分 14 団体 10,000
	入会金			
2)寄付金	シンポジウム協力金	90,000	90,000	北ア協、北短協、HOBA
	事業助成金			
3)助成金				
4)事業収入	普及活動事業参加費	300,000	45,000	JAS 有機格付/北里大学
		80,000	72,000	eびーふ格付@4,000
5) その他の収入		0		有機 JAS 格付業務委託費
	受取利息	1	3	北洋銀行
6) 前期繰り越し金		227,609	227,609	
合 計		917,610	664,612	437,000

## 支出の部

科 目		予 算	決 算	備 考
事業費				

定款 5 条 1 ①	e-びーふ認証事業費	50,000	0	e-びーふ農家経営事例調査立会い
定款 5 条 1 ②	調査研究事業費	100,000	55,740	学会・研究会情報収集車両費
定款 5 条 1 ③	肥育モデル作成事業	100,000	0	e-びーふ、アンガス肥育マニュアル
定款 5 条 1 ④	講演会開催事業費	300,000	193,696	シンポジウム、飼養技術研修会
定款 5 条 1 ⑤	機関誌発行事業費	130,000	107,018	機関紙発行/インターネット回線利用料
一般管理費	旅費・交通費	30,000		理事旅費・事務局交通費
	通信費	10,000	7,649	NTT 電話代、郵送料
	会議費	30,000		総会経費
	備品・消耗品費			
	賃借料	60,000		北の牧場舎
	手数料	35,000	60,731	会計処理料, 会計ソフト freee
	予備費	72,610	20,000	お見舞金(宮北牧場、草薙農園)
合 計		917,610	444,834	-7,83
繰越金		227,609	219,778	
預金	北洋銀	258,221	386,464	
現金		14,170	0	
前払い費用		0	4,000	北海道畜産技術連盟 22 年度分
(小計)		272,391	390,464	
未収入金		0	32,000	会費未納
売掛金		0	0	
合計		272,391	422,464	
未払金				
仮受金		0	202,686	左先生預り金、過入金等
繰越金		227,609	219,778	
合計		227,609	422,464	

## 監査報告

2021 年度収支決算について監査の結果、各項目毎に正確・適正に処理されている事を認めます。

2022 年 5 月 26 日 監事 内藤 順介

## 質問等

事業収入：会計処理報告

◇会計 竹川会計事務所で会計処理、内藤監事が確認、捺印

○瀬野氏より

食肉流通「業者」→「事業者」名称変更へ

畜産システム研究会 2022年11月帯広開催予定  
撫氏が畜大に着任し、中心となり実施予定

○決算書の繰越金の数値記載ミス修正→メールで配信されることで承諾されましたが  
→確認後、借入金 預かり 13万5千円と会費過入金含めた金額であると、総会時に報告  
上記1号議案は承認された

## 第2号議案

### Ⅱ. 2022年度事業計画

#### 1. 会員募集

目標会員数 35名以上を目指す。

総会当日加入 2名 日本獣医生命科学大学 柴田氏、サージミヤワキ 下田氏 現 30名

#### 2. 総会・理事会の開催

- 1) 2022 第 23 回総会(NPO 法人第 14 回通常総会)
- 2) 理事会、事務局会議 (ZOOM 含む) は必要に応じ開催する。

#### 3. 学術情報の収集と飼養技術研修会の開催 定款5条1-②

- 1) 肉牛関連学会・研究会の学術情報調査および参加。
- 2) 自給飼料・副産物活用型牛肉生産に関する飼養技術研修会の開催。  
年 2 回開催は難しく 1 回に変更

#### 4. 第 19 回資源循環型肉牛生産シンポジウム 2022 の企画・開催

定款5条1-④ 別紙にて畜産試験場 國重主幹から説明

シホ・ツルメマ「脱炭素社会における資源循環型牛肉生産」(仮)

日 時: 2021年11月10日(木) 13:00-17:00

会 場: とかちプラザ(帯広市) 2階 視聴覚室

内 容: (13:00-17:00)

1. 基調講演 「脱炭素社会における資源循環型牛肉生産(仮)」
2. 話題提供 1. 「実践例」氏  
話題提供 2. 「実践例」氏  
話題提供 3. 「活用事例」氏  
話題提供 4. 「肉牛専用種枝肉共励会の成績について」

司会 帯広畜産大学 教授 口田圭吾氏と受賞生産者

3. パネルディスカッション パネラー: 講演者、消費者代表

4. 意見交換会 eびーふ 試食会(18:00~) ホテルグランテラス帯広  
食味試験 (17:30~18:00) 帯広畜産大学 口田研究室主催

5. 現地検討会: 11月11日(金)

#### 5. 機関誌発行・ホームページ編集 定款5条1-⑤

- 1) 「e-びーふ NEWS 北の牧場から」の月刊情報誌の編集・発信。年 12 回
- 2) ホームページ・インターネットを利用し情報を公開・発信する体制の充実を図る。

#### 6. 「e-びーふ」認証事業の活性化 定款5条1-①

- 1) 新たな e-びーふ認証農家の発掘 内藤アンガス牧場、宮北牧場予定
- 2) 認証適格農場の実態調査
- 3) 「e-びーふ」の商標の活用

#### 7. 肥育モデル作成事業 定款5条1-③

- 1) 飼料事業の検討：e-びーふ事業化推進
- 2) アンガス飼養実態調査・統一飼養マニュアル作成  
→北海道アンガス牛振興協議会・北海道オーガニックビーフ振興協議会(HOBA)と連動  
各牧場定期調査・分析・検討会の開催

### 8. 2022 年度予算案

#### 収入の部

項 目		前年決算	予 算	備 考
1)会費・入会金	個人	90,000	90,000	今年度分 15 人 6,000
	団体	140,000	130,000	今年度分 13 団体 10,000
	入会金	0		
2)寄付金	シンポジウム協力金	90,000	90,000	北ア協、北短協、HOBA
	事業協力金	0		
3)助成金		0		
4)事業収入	普及活動事業参加費	45,000	300,000	e-びーふ試食・意見交換会参加費
	賦課金	72,000	80,000	e-びーふ格付@4,000
5) その他の収入		0	0	有機 JAS 格付業務委託費
	受取利息	3	1	北洋銀行
6) 前期繰越金		227,609	219,778	
合 計		664,612	909,779	

#### 支出の部

科 目		前年度決 算	予 算	備 考
事業費				
定款 5 条 1 ①	e-びーふ認証事業費	0	50,000	e-びーふ農家経営事例調査立会い
定款 5 条 1 ②	調査研究事業費	55,740	60,000	学会・研究会情報収集車両費
定款 5 条 1 ③	肥育モデル作成事業	0	100,000	e-びーふ、アンガス肥育マニュアル
定款 5 条 1 ④	講演会開催事業費	193,696	280,000	シンポジウム、飼養技術研修会
定款 5 条 1 ⑤	機関誌発行事業費	107,018	110,000	機関紙発行/インターネット回線利用料

一般管理費	旅費・交通費	0	30,000	理事旅費・事務局交通費
	通信費	7,649	10,000	NTT 電話代、郵送料
	会議費	0	30,000	総会経費
	備品・消耗品費	0	10,000	
	事務経費	0	60,000	北の牧場舎
	手数料	60,731	60,000	会計処理料, 会計ソフト freee
	予備費	20,000	109,779	
合 計		444,834	909,779	
差引		219,778	0	
仮受金		202,686	0	
繰越金		219,778	0	
合計		422,464	0	

上記 2 号議案は承認された

### 第3号議案 その他

#### 1. 役員改選

役員改選は 2 年任期で今年はありません

#### 2. 協議会の運営体制

- 1) 総務担当 協議会の運営、会計事務/クラウド会計 freee (事務局)
- 2) NPO 法人会計事務 外部委託：竹川会計事務所
- 3) 肉牛関連学会・研究会の学術情報調査 (左理事)
- 4) 飼養技術研修会の運営 (畜試)
- 5) 資源循環型肉牛生産シンポジウムの運営 (畜試・事務局)
- 6) e-びーふ news 編集・ホームページ担当 (事務局)
- 7) 「e-びーふ」認定委員会 (畜試)
- 8) 補助事業申請・運営 (事務局)
- 9) 飼料事業の推進 (畜試・事務局)
- 10) アンガス飼養実態の調査分析検討会の開催 (畜試・事務局)

事務局体制の充実：

#### 3. 肉牛事業について

- 1) e-びーふ経産牛の肥育事業；肉加工・販売まで  
北大短角 e-びーふ、きの e-びーふ 月間 1~2 頭

質疑等：

○環境リサイクル肉牛協議会が早くから取り組んでいた内容を数値化したい

全て総会議事は了承されました。以上。

(別紙)

## 第 19 回資源循環型肉牛生産シンポジウム 2022 開催企画書 (案)

開催趣旨：

シンポジウムテーマ 案①「脱炭素社会における畜産を考える」

案②「脱炭素社会実現のために畜産は何ができるのか」

2015 年に開催された国連気候変動枠条約第 21 回締約国会議において「パリ協定」が採択され、全ての締約国は脱炭素社会を目指して、温室効果ガスの排出量を大幅に減らすという目標を掲げた。

日本においても 2050 年までに温室効果ガス排出量実質ゼロ、いわゆるカーボンニュートラルの実現を目指した取り組みを進めており、その影響は畜産業にも及んでいる。農林水産省によれば、2019 年の日本の農林水産分野における温室効果ガス排出量は二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 換算で約 4747 万トン。国内の全排出量の約 4% を占める。このうち、家畜関連が約 3 割を占めており、畜産分野における温室効果ガス排出の低減技術の開発や畜産経営全体の排出状況を鑑みた効率的・効果的な排出削減システムの確立が急がれている。

本シンポジウムでは、肉牛生産におけるカーボンニュートラルの取り組みについて研究者、生産者、消費者など多角的立場からご講演いただき、脱炭素社会の実現のために畜産分野ができることを考えていきたい。

日 時：2022 年 11 月 10 日(木) 13:00-17:00

会 場：とちぎプラザ（帯広市）2 階 視聴覚室

共 催：環境リサイクル肉牛協議会、北海道アングス牛振興協議会、北海道短角牛振興協議会、北海道オーガニックビーフ振興協議会、帯広市

後 援：帯広畜産大学、北海道十勝総合振興局、芽室町農業協同組合、十勝農業協同組合連合会、北海道総合研究機構畜産試験場、北海道酪農畜産協会、NHK 帯広放送局、北海道新聞帯広支社、日本農業新聞北海道支所、十勝毎日新聞社

参加費： 無料

内 容： (13:00-17:00)

1. 基調講演 「脱炭素社会における資源循環型牛肉生産（仮）」  
北海道大学名誉教授 波多野隆介氏（土壌学研究室：環境・循環型・土壌生物・微生物）
2. 話題提供 1. 「  
生産者 氏  
話題提供 2. 「農地を守ろう！カバークロッププロジェクト」（仮）  
東都生協商品部 部長補佐 吉澤 正義氏



話題提供 3. 「肉牛専用種枝肉共励会の成績について」

司会 帯広畜産大学 教授 口田圭吾氏と受賞生産者

### 3. パネルディスカッション パネラー：講演者、消費者代表

例年行っている下記事業

- ・ 意見交換会 eビーふ 試食会
- ・ 現地検討会

新型コロナ対策

- ・ 入場制限 会場収容人数の 50%以下先着 80 名 事前予約→確認中
- ・ 入口での対応 名簿記載確認・消毒・検温ほか

参加対象者および参加予定人数：

道内肉牛生産者、管内農業団体関係者、流通業界関係者、消費者団体関係者大学・試験  
研究機関関係者 約 80 名（入場制限：新型コロナ対応）

実行委員会：

（環境リサイクル肉牛協議会）左 久、花房俊一、青山次郎、奈良岡善之、  
岩崎方保、國重享子、岩上弦太郎

（北海道アンガス牛振興協議会）内藤順介

（北海道短角牛振興協議会）高橋祐之

事務局：（特非）環境リサイクル肉牛協議会 花房俊一

〒080-0351 北海道河東郡音更町字然別北 5 線西 25 番地 2 北の牧場舎気付

Tel/Fax:0155-40-7301 e-mail: kanrikyo@e-beef.jp

シンポジウム申込み先：

（地独）道立総研機構 畜産試験場 肉牛G 國重 享子

[Tel:0156-64-0624\(直通\)](tel:0156-64-0624) Fax:64-3212 e-mail: kunishige-kyouko@hro.or.jp